



田舎モダン

開成町

kaisei town

人と自然が調和した“田舎モダン”のまち 神奈川県 開成町

開成町長 山神 裕



I 開成町の概要(1/2)



- ・1955年・昭和30年 町制施行
- ・面積：6.55km² (神奈川県内最小。東日本で最も小さい町)
 - 市街化区域：43%、
 - 平ら 可住地面積：100%
 - 地価公示：住宅地 8~15万円/m²
- ・人口：18,768人(2024/5) (町制施行以来69年間、毎年増加中)
 - 人口増加率(2020年国勢調査)：+7.7% (県内市町村4期連続1位)
 - 年少人口(2020年国勢調査)：14.8% (県内1位)
 - 合計特殊出生率(2020年国勢調査)：1.60 (県内1位、県1.26、全国1.33)
 - (2018~2022)：1.47 (県内1位、県1.26、全国1.33)
 - 高齢化率：26.0% (県平均 25.6%、全国平均 28.7%)

I 開成町の概要(2/2)

<アクセス>

小田急新宿駅から75分（“開成駅”急行停車駅）
東京駅から60分（東海道新幹線 小田原乗り換え）
東名東京ICから45分（大井松田IC）



<観光スポット、イベント>

古民家“瀬戸屋敷”（築300年）

瀬戸酒造店（2022年世界酒蔵ランキング9位）

パークゴルフ場（関東で最初。全国大会開催）

開成町あじさいまつり（6月。20万人ご来場。農道17haに5,000株）



<まちのコンセプト>

「人と自然が調和した“田舎モダン”なまち」

都心から程よい距離感の田舎の空気

+ それを楽しむモダンな暮らし

<役場庁舎>

庁舎としては、全国初のZEB認証

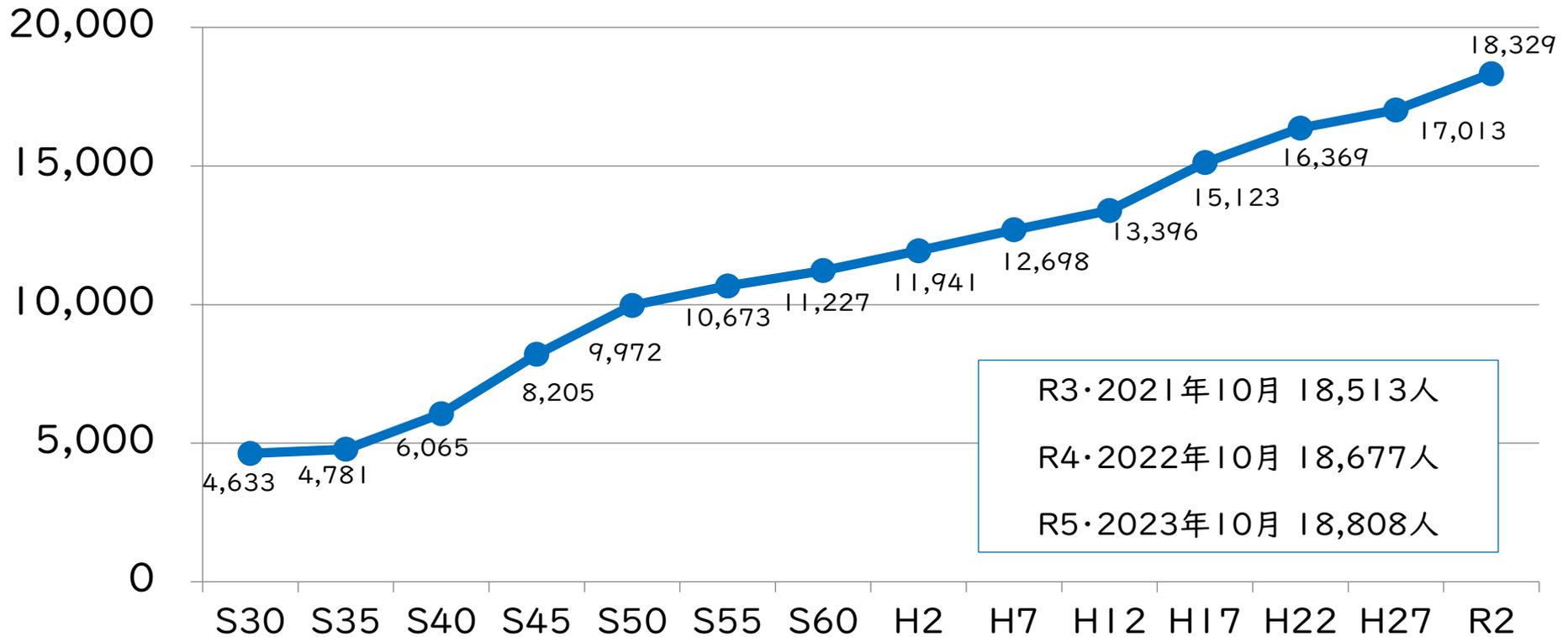


2 開成町のあゆみ

年	出来事
1955年	開成町誕生
1965年	町内全域を都市計画区域に指定
1972年	北部地域を農業振興地域に指定
1984年	あじさい農道にあじさいを植栽
1985年	小田急線開成駅開業
1988年	足柄大橋開通（東名高速道路大井松田ICへのアクセス向上）
同	第1回あじさい祭り、開成秋まつり（阿波おどり）開催
1994年	開成水辺スポーツ公園利用開始
2003年	開成庭園の杜パレットガーデン壺番館 竣工
2005年	あしがり郷瀬戸屋敷開園
2006年	富士フィルム先進研究所開所
2010年	開成南小学校開校
2015年	町制施行60周年
同	南部土地区画整理事業竣工（みなみ地区誕生）
2019年	小田急線開成駅への急行停車開始
2020年	開成町役場新庁舎竣工（日本初のZEB庁舎）

3 開成町の人口

- ・町制施行以来、一貫して**人口が増加**
- ・平成27年から令和2年までの5年間の人口増加率(7.7%) **県内市町村1位**



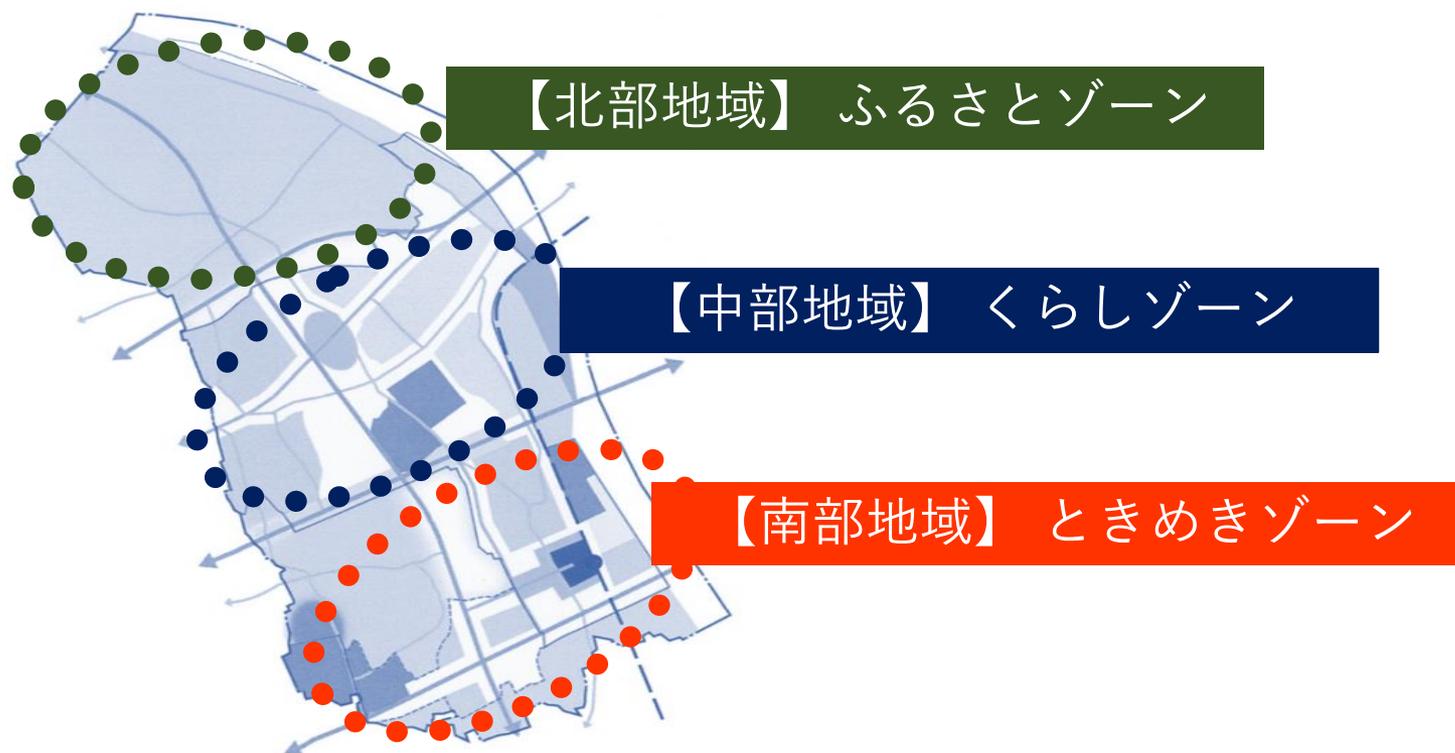
4 開成町のまちづくり～人口増加の要因・背景①～

計画的なまちづくり

- ・1965年（都市計画法制定）、全町域を都市計画区域に編入。
水田ばかりの人口6,000人にしては異例
田園空間を維持しつつ、計画的な開発が緩やかに進捗
- ・真っ平で住み易い
- ・土砂災害がないことへの再評価
- ・都市計画事業“南部地区土地区画整理事業”の成功
(2007～2015年。面積 27ha。組合施行。組合員数 152名。減歩率40.63%)

<土地利用>

- ・ 昭和40年(1965年)に町内全域を**都市計画区域**に指定
- ・ 町域を**3つの地域**に大別



【北部地域】
ふるさとゾーン



【中部地域】
くらしゾーン



【南部地域】
ときめきゾーン



4 開成町のまちづくり～人口増加の要因・背景②～

利便性・知名度・イメージの向上

- ・開成南小学校開校
- ・富士フィルム研究所開設+足柄紫水大橋開通（南北3kmの町に4本目の橋）
※企業誘致を積極展開する神奈川県プロジェクト
“インベストかながわ”の第1号案件
- ・『人と自然が調和した田舎モダンのまち』のイメージ
- ・ブランディングブランディング戦略の成功

<町のイメージ、知名度の向上>



☆ あじさいのまち 開成

- ・あぜ道に約5,000株のあじさい
- ・あじさいまつり開催(1988年~)
- ・例年20万人ご来場



☆ ブランディング戦略

- ・町制施行60周年(2015年)にスタート
- ・定住人口/交流人口の拡大
- ・町そのもののブランド化の取組

<ブランディング戦略の目標>

1. **住みたい** という意向を高める (定住促進・町**外**向け)
2. **住み続けたい** という意向を高める (定住促進・町**内**向け)
3. **訪れたい** という意向を高める (交流促進・町**外**向け)
4. **戻ってきたい** という意向を高める (町出身者向け)



<ブランディング戦略のコンセプト>

田んぼがあって、川があって、山々の風景があって。

毎日の生活も、なかなか便利で。

小さな町なのに、住んでる人はみんな元気で。

あいさつが絶えなくて、町がひとつの家族みたいで。

なにもないんじゃないなくて、余計なものがなにもない。

だから、人と人が近くなる。きもちが広くなる。

都市からほどよく離れた、ちょうどいい田舎を楽しもう。

そんな時間や生活が、ちょっと贅沢だと思う。

“田舎モダン”なライフスタイルを表現する町へ。

田舎モダン



開成町

k a i s e i t o w n

4 開成町のまちづくり～人口増加の要因・背景③～

小田急グループによる開発

- ・開成駅の開業(1985年)・急行停車(2019年)
- ・マンション分譲(町内初の高層住宅。2003年以降 6棟、約1,300人増加)
- ・住宅分譲(2015年以降、約1,400人増加)

※2020年 乗降客数 9,830人(小田急線全70駅で59位。急行停車駅では断トツ最下位)

※自立持続可能性自治体(全国65自治体、うち人口1～5万人34自治体)
群馬県吉岡町 埼玉県滑川町

<人口増加の背景>



富士フィルム先進研究所

開成南小学校

南部地区土地区画整理事業 (H27完了)

開成駅周辺の戸建て・マンション分譲

<市街地の整備>



1988年



2019年

<市街地の整備>



田舎モダン

開成町

kaisei town

×



一般社団法人 Corporate vitality and local governments

公民連携推進機構

市街地整備・区画整備の一環として、開成駅前の区画整理事業を民間企業の資金やノウハウを活用し、「開発事業」を調査・検討するために（一社）公民連携推進機構と連携を模索しております。

具体的には・・・

図書館やサードプレイスや民間の商業施設など複合施設の建設や開成駅前の区画整理における全体像の設計等で連携を検討しております。

<人口増加の背景>

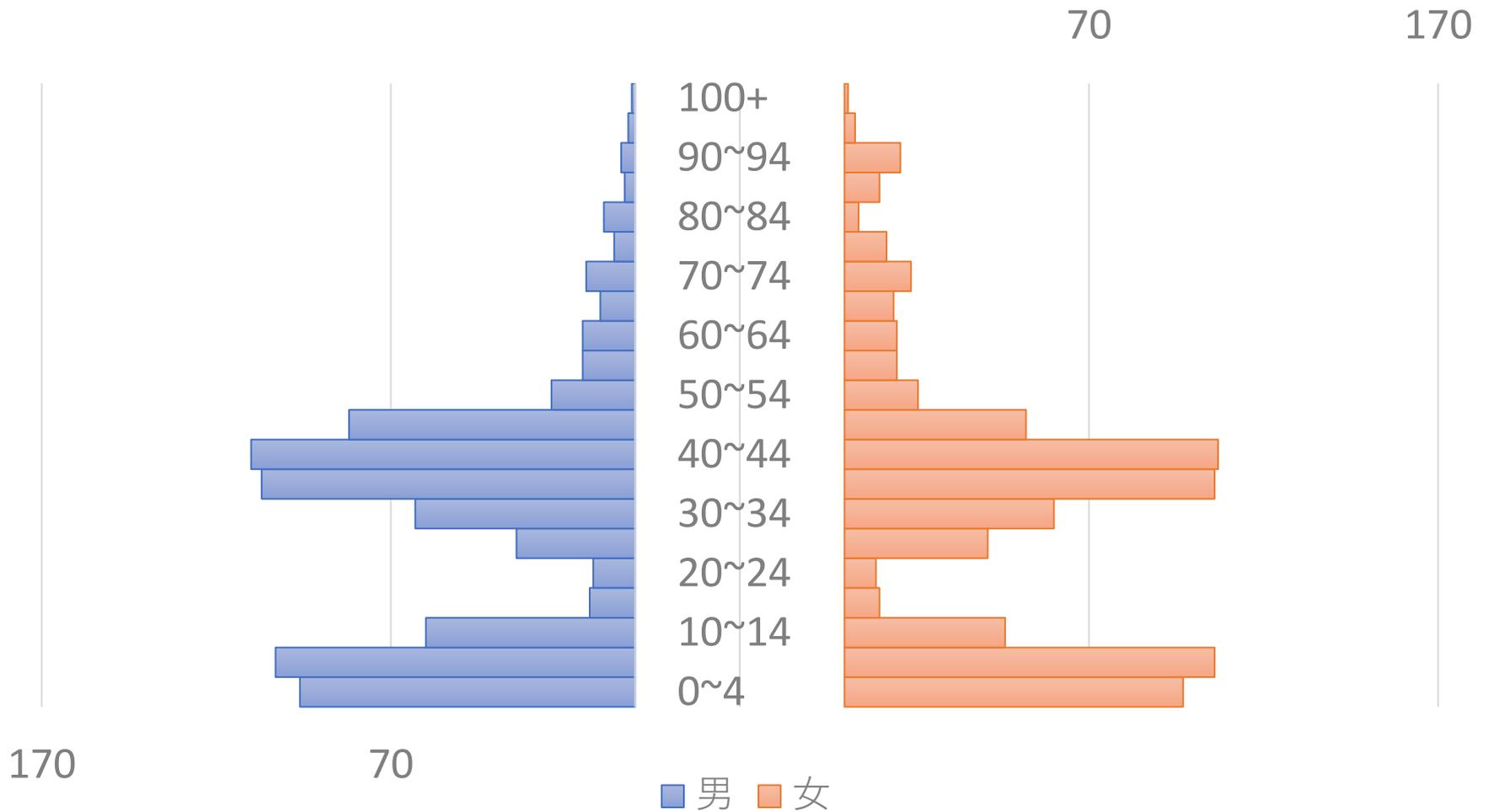


みなみ自治会

パレットガーデン自治会

<人口構造(年齢構成バランス)>

みなみ自治会エリア(令和5年7月1日現在)



4 開成町のまちづくり～人口増加の要因・背景④～

政策の連続性



☆企業誘致
(2006年)



☆区画整理
(2007年～2015年)



☆新設小学校
(2011年開校)



☆ブランディング
(2015年～)



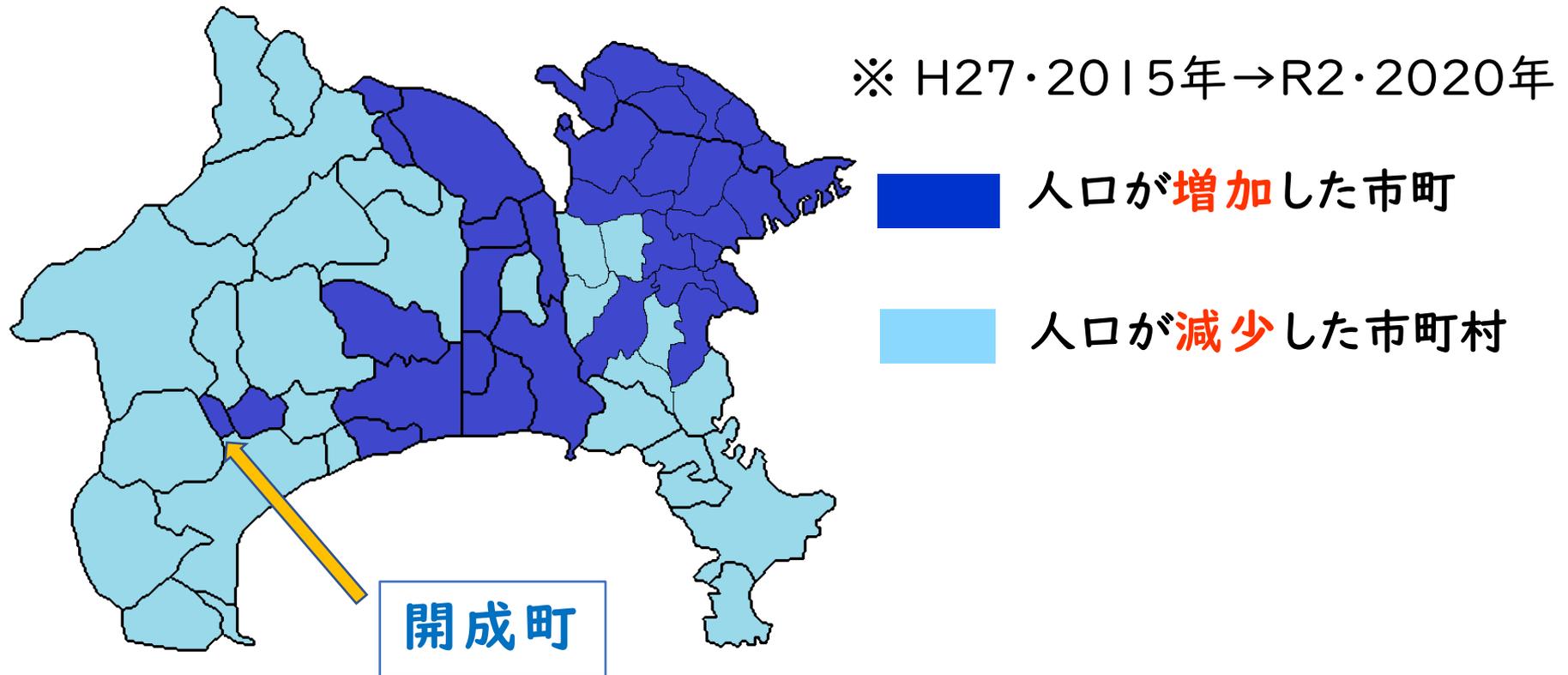
☆子育て支援の充実
(順次)



定住人口の
増加

5 神奈川県内の市町村の人口

県西地域・三浦半島地域では人口が減少



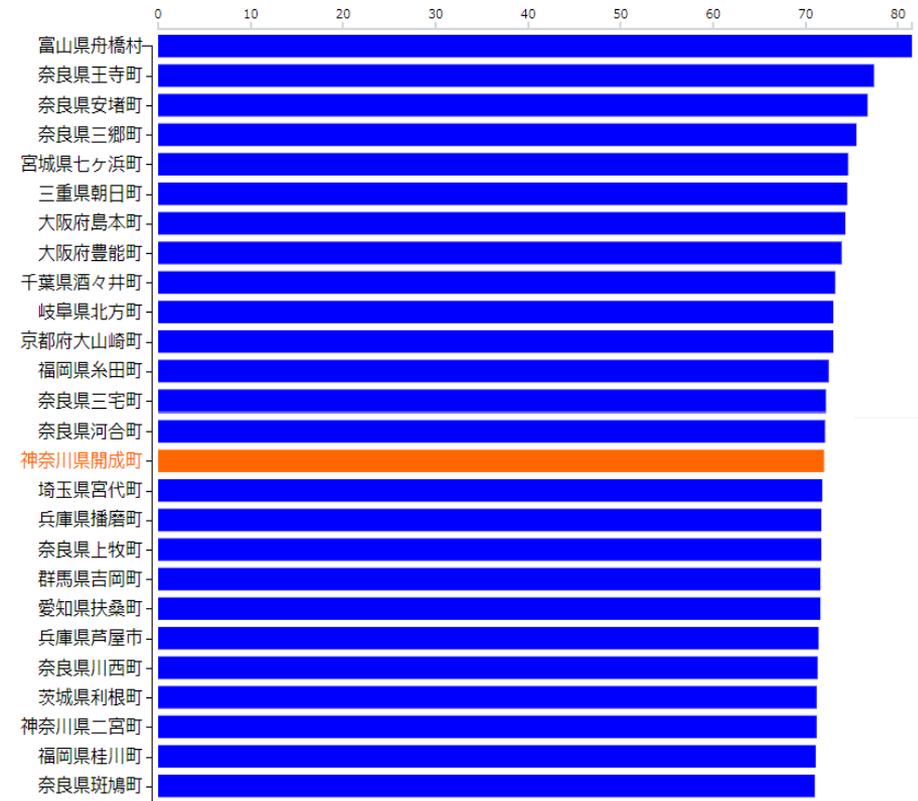
6 開成町の特徴

・他市町村への通勤者比率:

72.0% (2015年。全国15位)

71.1% (2020年。全国25位)

町内に雇用機会が少ないことの表れ
ベットタウンとしての成長が顕著



データ元：国勢調査・Dashboard統計

まちづくりの最終目的

＝

町民の皆さんの幸せ・笑顔

町民の皆さんの幸せ・笑顔のために

- ・満足度（幸福度）

≡ 開成町に住み続けたい

住んで良かった

- ・教育のまち・かいせい

- ・住み易さNO.1